



稲敷郡  
阿見町

面積：64.98km<sup>2</sup>  
(平成5年10月1日現在)  
人口：45,493人  
男：22,839人  
女：22,654人  
世帯数：14,603世帯  
(平成7年6月1日現在)



町の花  
キク  
町の木  
サクラ  
町の鳥  
ウグイス

阿見町は、七つ釘で名高い旧海軍予科練の地として知られており、昭和初期には飛行船ツェッペリン号、世界一周のリンダーグ氏が相次いで訪れました。現在、自衛隊武器学校構内には予科練記念館(雄翔館)が建てられており、特攻隊員たちの遺品が展示されています。

阿見町には田園地帯も残っており、ハス田が多く見られます。また実生すいかは県銘柄産地の一つです。

君島ひょっとこ、福田の馬鹿祭といった地域に根ざした行事とともに、新しく全町を挙げて「まい・あみ・まつり」に取り組んでいます。

茨城大学農学部に加え、今春県園芸試験場跡地に県立医療大学が開学しました。さらに新たな工業団地の誘致も決定し、文教面・産業面における今後のますますの発展が期待されています。

《阿見町企画課》

課長 大崎 誠  
副参事 木鉛 章  
主任 田中 ふじ子



阿見町役場にて

右  
大崎課長  
中  
田中主任  
左  
木鉛副参事

——阿見町の特徴は。

大崎：阿見町は様々な顔を持っています。工業団地の誘致や土地区画事業といった開発の側面。茨城大学農学部、今春開校の県立医療大学という文教の側面。さらに、総合病院もあり、町でも総合保健福祉会館を建設するように福祉の面も今後一層充実するはずです。

また、阿見町は生涯学習のモデル市町村となるなど、“ふれあい地区間活動”をとおして、人づくりと町づくりとに取り組んでいます。

——課の雰囲気はいかがですか。

大崎：明るい雰囲気一杯です。いつでも楽しい話で盛り上がっています。

木鉛：自由にものが言えることが企画課の伝統。

田中：みんな真面目で、何事にも一所懸命です。

——ストレスの解消法は。

木鉛：巨人が勝てば最高の気分。でも今年は逆にストレスの原因にもなっています。

田中：おもいっきり食べることです。

——趣味は。また、関心のあることは。

田中：日本舞踊、踊るとスカッとします。今度ぜひ富良野のラベンダーを見てみたいものです。

木鉛：ゴルフ、ラウンド後の生ビールが本当に楽しみ。最近手話に興味がおきはじめています。



# 経 済 動 向

## 国内の動き

### ● 郵貯残高 200兆円突破

郵便貯金の残高が6月15日に初めて200兆円の大台を突破した。預金金利が銀行預金に比べて高いことを背景に、低迷する株式市場や経営基盤の弱い中小金融機関からの資金移動が起きている。

郵政省によると15日現在の郵便貯金残高は200兆6105億円。郵貯の利率は史上最低を更新し続けているにもかかわらず、民間金融機関の預金に比べて割高とあって、今年度

に入ってから15日までの累積でも1兆7560億円の残高増となっている。

対照的なのが株価の低迷が続く株式市場で、「資金の流失傾向がある」（山一証券）という。不良債権問題の処理が先送りされ、金融システム不安が長期化するようだと、民間の金融、株式市場はますます縮小するとの見方が強まっている。（6月17日付 日経）

### ● 欧米に調査団派遣

大蔵省は金融機関の破綻処理手法を充実させる作業の一環として、今夏にも蔵相の諮問機関である金融制度調査会の専門委員会で欧米調査団を派遣する方向で準備を始めた。破綻処理の経験が日本より長く処理の選択肢も充実している米国の状況や、欧州諸国の金融機関の経営建て直しの教訓などを日本の制度下で生かすのが目的だ。ただ、金制調

は関係法令の改正をにらんで年内に破綻処理の具体策について結論を出す予定で、限られた日程での調整作業となる。

同省では預金保険法や中小企業等協同組合法の改正なども念頭に置いており、米国の業態別の預金保険法や破綻処理の手法と日本の制度を比較し、改善点を探ることが必要とみている。（6月18日付 日経）

### ● 国民医療費 1人あたり 19万5300円

厚生省は93年度分の国民医療費が、前年度に比べ3.8%多い24兆3631億円になったと発表した。国民1人あたりでは19万5300円で、前年度よりも6千600円増えた。国民医療費は国民が一年間に医療機関などで病気やけがの治療に使った費用の総計。総額は過去数年間で比較的低い伸びだが、原則70歳以上の老人医療費は前年度比6.6%増と高い伸び

を続けている。

国民医療費の総額は、前年比で91年度は5.9%、92年度は7.6%の伸び。93年度の伸びが小さい原因について厚生省は「医療費の増加に結び付くほどの診療報酬の引き上げがなかったことや、インフルエンザの流行がなかったこと」などを挙げている。（6月25日付 日経）

## 県内の動き

### ● 環境基準、河川の達成率44%

県のまとめによる1994年度「環境白書」では、本県の環境は良好な状態を維持しながらも、生活排水による水質汚濁や緑の減少、廃棄物など都市・生活型の環境問題が顕在化していると指摘。

白書によると、典型7公害のなかで水質の悪化が著しい。河川110水域のうち環境基準を達成しているのは49水域で、

達成率44.1%。県北の多賀水系や久慈川水系、那珂川水系は達成率が高いが、霞ヶ浦流入河川は低く、24河川のなかで達成しているのは大洋川だけ。

霞ヶ浦や北浦などの湖沼の環境基準は全滅で、なかでも霞ヶ浦はCOD(科学的酸素要求量)が1リットル当たり8.2ミリグラムで、年々高くなっている。（6月1日付 茨城）

### ● 出店申請30件増

茨城県がまとめた大規模小売店舗届け出状況によると、94年度の県への新規出店届け出は71件で前年度の41件から大幅に増えた。県商業振興課では、昨年5月の大規模小売店舗法(大店法)の運用基準緩和の影響が大きいとみている。

届け出は第一種(売り場面積3千平方メートル以上)が14件で前年度より6件、第二種(売り場面積5百平方メートル

以上3千平方メートル未満)は57件で同じく24件増えている。特に規制緩和で出店が原則自由になった売り場面積千平方メートル未満で出店が急増しているのが特徴。小売業者が規制緩和を活用し、一転して積極的な出店に乗り出した表れと見られる。地域別では県南地域への出店が目立つ。

(6月9日付 日経)